平成28年度活動報告書

震災と共に

―今を伝える―

総合学生支援センター ボランティア活動支援センター 学生スタッフ

はじめに

ソーシャル・ラーニング

国際未来教育基幹キャビネット
学生支援センター　センター長
渡邉　誠

最近聞く言葉の一つに「ソーシャル・ラーニング」という言葉があります。また横文字でわかりにくいと怒られそうですが、直訳すれば社会（社会的）学習となります。色々な定義がありますが仮にここでは、「社会で学ぶ・社会から学ぶ」ということにしてみてください。

千葉大学では、いまソーシャル・ラーニングについて色々なことを検討し、授業の一環として取り入れることを考えています。教育学部の下永田修二先生を中心に、これまでのボランティアの活動や、学生個々のキャリア形成、グローバル・ボランティアなどの成果、さらにはこれからのオリンピックやパラリンピックへの協力に到るまで様々なことを多角的に検討しております。その最初の取っかかりとして「キャンパスライフとソーシャル・ラーニング」という授業が平成29年度よりスタートします。

では、ボランティアはソーシャル・ラーニングの一部なのでしょうか？おそらく「そうでもあり、そうでもない」ということが答えだと思います。難しい話は専門家の方々にお任せしたいと思いますが、ボランティアを経験する事によって、「社会から学ぶ」ことはたくさんあると思います。でもボランティアを「社会で学ぶ」場所にはして欲しくないと考える方もいると思います。

さて、平成28年度の活動を見させていただきましたが、今回（おそらくこれまでもあったのだと思いますが）「防災かるた」を見て色々と感動することがありました。そこで思ったのですが、ボランティアでもソーシャル・ラーニング「楽しく防災を学ぶ」ということは確かに大切だなということでした。かるたの絵を見て楽しさがわかるというか、真剣に考えてそれを表現した達成感がきっと楽しく学ぶ事に繋がっているのだろうということが容易に伝わってきました。

もちろん現実はもっと厳しいと思います。震災から6年がたちますがまだまだ解決されていない問題が多々あると思います。ですが、少しずつでも学ぶ「楽しさ」にふれあい、未来に向かって羽ばたくための支援が継続できればと思います。蛇足ですが、「防災かるた」ぜひもっと広げてください。これからもみなさんの活動を応援していきます。

センター紹介

1．センターの設置目的、概要

東日本大震災の被災地では救援・復興活動が行われており、長期にわたってボランティアが必要であると予想された。そこで我が千葉大学ではボランティア活動を希望する学生や教職員を支援する事を目的とし、2011年3月末に「千葉大学ボランティア活動支援センター（以後文中ではセンターと略）」を設置した。

センターは「ふれあいの環」総合学生支援センター（以下文中ではふれあいの環と略）内にあり、常時在室しているふれあいの環コーディネーターがセンターの窓口として対応している。活動の企画や運営は、大学教職員と、ふれあいの環で活動する学生支援団体「ボランティア活動支援学生スタッフ（旧：ボランティア・コーディネーター）」を中心とした有志学生によって進められる。

千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」を念頭におき、ボランティア活動を通した社会貢献の推進、学生の人間的成長の支援をミッションとして活動を行っている。

2．センターの活動

本センターの主な活動は、下記のとおりである。

1） ボランティア活動の企画

2） ボランティア募集情報の収集、ボランティア希望者への情報提供の支援

3．ボランティア活動支援学生スタッフ

本センターでは、教職員とともに学生スタッフがピアサポーターとして活動している。学生スタッフの主な役割は以下のとおりである。

1） 大学内に集められたボランティア情報を学内に発信すること

2） ボランティア活動支援センターに依頼がきたボランティアの運営・企画をすること

3） 学生が発案した企画を運営すること

平成28年度活動年表

月	活動内容	内容
平成28年	1日	【ふれあいの環】 新入生ガイダンスに参加
4月	6,14日	【ふれあいの環】 ５団体合同説明会を開催
	15日	【CISG】 ウェルカムパーティーを開催
5月	19日	【ピア】 第１回カタリベカフェを開催
	27,28日	【ふれあいの環】 富岡小学校運動会を支援
6月	9日	【CISG】 第４９回ユニバーサルフェスティバルを開催
	21日	【ピア】 第２回カタリベカフェを開催
	24～26日	【ふれあいの環】 第7回東北ボランティアツアーを開催
7月	1～7日	【ふれあいの環】 七夕ウィークを開催
	8日	【V 学生スタッフ】 ボランティア相談会を開催
	8日	【ふれあいの環】 夏季キャンパスクリーン活動に参加
	26日	【ふれあいの環】 暑中見舞いプロジェクトを実施
8月	30,31日	【ふれあいの環】 研修合宿を実施
9月	13日	【ふれあいの環】 田中みこし祭りに参加
	8,9日	【NT 会】 PEPnet シンポジウムに参加
	25日	【V 学生スタッフ】 ちばシティサバイバルキャンプ開催
10月	10日	【ふれあいの環】 千葉大学学長杯駅伝に参加
	14日	【CISG】 ウェルカムパーティーを開催
	14日	【ピア】 第３回カタリベカフェを開催
11月	5,6日	【ふれあいの環】 千葉大学祭に出展
	22日	【ピア】 第４回カタリベカフェを開催
12月	6日	【CISG】 第５０回ユニバーサルフェスティバル開催
	16日	【V 学生スタッフ】 縁 joy 東北に参加
	19日	【ピア】 第５回カタリベカフェを開催
平成29年	10日	【ふれあいの環】 年賀状プロジェクトを実施
1月	24日	【ピア】 第6回カタリベカフェを開催
2月	3日	【ふれあいの環】 富岡小学校豆まき集会を支援
3月	13日	【ふれあいの環】 「3.11を想う」を開催
	14日	【キャリアポート】 キャリアデザインラボを開催

今年度の活動

富岡小学校・中学校との交流

富岡町について

富岡町は福島県の太平洋側、東京電力福島第一原子力発電所と第二原子力発電所の間に位置する小さな町でした。震災前は人口約16,000人が住んでいました。

原発事故により富岡町全域が警戒区域に指定され、町民は避難を余儀なくされてしまいます。震災から5年半が経過した現在も、富岡町は帰還困難、居住制限、避難指示解除準備の3区域があり、町民は町に戻ることができない状況が続いていました。2017年4月に避難指示解除を目指しています。

画像：富岡インサイド
http://www.tomioka.jpn.org

三春校外観

三春校の校内

富岡小中学校について

富岡第一、第二小学校、および第一、第二中学校は、富岡町にあった町立学校です。合計1470名の児童が通っていましたが、原発事故の影響で全国各地に散らばってしまいました。

その後富岡町は、三春町の曙ブレーキ工場の工場跡地に「富岡小中学校・三春校」として仮校舎を設置します。

避難先が福島県三春町に近い生徒を集め、2011年9月1日に富岡小中学校・三春校を再開しました。小中学校合計で約70名程度が三春校に集まり学び始めました。

千葉大学と富岡小学校

富岡小中学校と千葉大学の関わりは、富岡第一、第二小学校の校長先生が千葉大学教育学部卒業であり、千葉大学の OB に支援（遊具の寄付など）を呼びかけたのがきっかけでした。

その後、避難生活の中で人との関わりの少ない子ども達の心のケア・将来への希望やコミュニケーション能力の育成を目的とし、継続的・多面的な交流活動をしていくことが決定しました。

平成 26 年度富岡運動会

○千葉大学と富岡小・中学校交流の軌跡

【年表】

2011年	3月11日	東日本大震災
2012年	1月31日	当時の富岡第一小学校校長先生を招いた講演会
	2月02日	小学校豆まき行事
	5月18日、19日	小学校運動会
	7月11日	富岡中学校「国際理解講座」
	8月22日～24日	富岡町立小中学校再会のつどい
	12月27日、28日	福島県「富岡町小学生のつどい」
2013年	2月1日	小学校豆まき行事
	5月17日、18日	小学校・幼稚園運動会
	8月7日	富岡小中高再会の集いの会
2014年	1月31日	豆まき集会
	2月22日	富岡小学校児童と過ごす東京ディズニーランド
	4月18日	小学校植物工場見学
	5月23日、24日	小学校運動会
2015年	1月3日	小学校冬の体験活動 & 豆まき集会
	5月22日、23日	運動会
2016年	1月29日	小学校豆まき集会
	5月27日、28日	運動会
2017年	2月3日	豆まき集会

今年度の富岡小中学校支援

富岡幼・小・中
合同運動会支援

日　時：平成28年5月27日・28日
参加者：学生22名、教職員9名
場　所：福島県

運動会は児童の思い出となる大切な催しですが、三春校は運営する教職員も出場する児童も少ない状況にあります。
そこで千葉大学では毎年、学生や教職員をから参加者を募り、運動会での競技運営の補助や、競技への特別参加等をさせていただいています。

一緒にダンスを踊る様子

全校リレーの前に円陣を組む様子

運動会の前日には三春校に伺い、校舎見学や児童との交流を行いました。
当日は、競技を通してより絆を深めることができました。

参加学生の声

大学1年生から3年間、富岡小学校との交流活動に参加してきました。初めて会った時には4年生だった子どもたちが、今は中学生です。長期間、関わることで子どもたちの成長も感じることができ、富岡小学校の状況についても理解を深めることができました。

学生スタッフ　文学部4年

一緒に給食を食べる様子

富岡第一、第二小学校　冬の体験活動および豆まき集会支援

日　時：平成29年2月3日
参加者：学生9名、教職員6名
場　所：ファミリースノーパーク　ばんだい×2

　富岡小学校では毎年冬に、スキー体験と豆まき集会という行事を行っています。

参加者の集合写真

スキー教室の様子

　スキー体験では児童のスキー練習の補佐をし、またスキーが難しい児童についても、一緒に雪遊びやソリ滑りなどの交流を行いました。
　豆まき集会では、児童が豆を投げる鬼の役として参加し、行事を盛り上げました。

参加学生の声

　復興の中で生活する子どもたちのがんばる姿や笑顔は、何物にも代えがたい素敵な宝物だと改めて感じました。あの子たちが笑顔やチャレンジ精神を忘れないよう、私に出来ることをもっと考えなければならないと思いました。
　また、子どもの気持ちを汲み取り、今どんな声かけをすることがその子の成長に繋がるのかを判断する力が、まだ私には不足していると痛感しました。今後も機会があれば積極的に関わり、富岡の子どもたちの力になりたいです。

学生スタッフ　教育学部3年

豆まき集会の様子

第7回東北ボランティアツアー

6月下旬に、第7回となる千葉大学東北ボランティアツアーを開催。
福島県南相馬市においてボランティア活動を行いました。

実施概要　参加者：学生、教職員
活動場所：福島県南相馬市
日　　程：事前研修　6月15日
ツアー　6月24日
～26日
事後研修　6月30日

○事前研修

ボランティアツアーを安全かつ有意義なものとすることを目的として、ツアー参加者に対して事前研修を実施しました。
健康管理や、南相馬の被災状況などについて理解を深めます。
また一緒に作業をする班員や活動を補助する教職員との顔合わせも行いました。

○被災地見学

ツアー初日である25日は、被災地を見学しました。
見学したのは、2012年夏開催のボランティアツアーでがれき撤去などを行った、宮城県南三陸町です。

見学では、現地で活動する語り部の方にお話を伺いました。
被災当日の体験談や被害の状況、復興の進展具合や防災対策庁舎の保存問題まで、震災について様々なお話を聞くことができました。

初日の夜には、見学の振り返り会を行いました。見学を通して感じたこと、考えたことなどを共有し、学びを深めました。

○南相馬市での活動

2日目朝、南相馬市のボランティアセンターに行きボランティアのマッチングに参加。
マッチングでは活動場所の割り当てや、活動内容の説明などが行われます。

今回の作業は、被災した民家の除草と除草した枝葉のフレコン詰めでした。

避難指示のために5年以上放置されてしまった民家では、雑草が大量に繁殖していました。半日かけて除草を行い、ようやく綺麗にすることができました。

○事後研修

ボランティアツアーの翌週には事後研修を行いました。

参加者は日常生活に戻った上で改めてツアーでの体験を振り返り、ボランティアや被災地についての考えを深めました。

2014年夏からの3年間、ボランティアの仲介をして頂いた南相馬市ボランティアセンターも、2016年度で閉鎖が予定されています(2016年6月時)。除染が進み避難区域の一部が徐々に解除されること、復興が進みボランティアのニーズが減っていることが主な理由です。

震災から5年経ち、遅れていた福島県の復興も少しずつ次の段階へと進んでいます。私たちも、進んでいる復興の中で今何が必要とされているのか、自分たちは何ができるのかを考えながら、今後も可能な限り支援を続けていこうと思います。

ツアー参加者の声

〈＊語り部プログラムを受けて〉
震災から5年という月日が流れたが、仮設住宅や更地を見て、まだまだ被災された方が震災以前の日常を取り戻しているとは言い難いと感じた。被害を受けた建物を後世に伝える為に残すかという事で町民が二分化しているという話を伺い、震災は人間関係にも大きく影響するのだと知った。今までの震災による被害は物理的な被害のみであるという自分の認識が甘かったと痛感した。　文学部2年

〈＊語り部プログラムを受けて〉
南三陸の津波被害が大きくなった要因として、気象庁の情報が住民の避難をおくらせてしまったというお話が非常に印象に残った。防災のためには堤防や町の高台など構造的な部分だけでなく、情報伝達の方法や、避難訓練などを徹底することも大切なのだということを学んだ。
また、今はあまり報道されておらず私たちの記憶から東日本大震災が薄れてきているが、実際に語り部さんの話を聞くと震災を経験した方はまるで昨日のことのように鮮明に覚えていらしたのでそういった部分からもこの震災の影響の大きさを感じた。 工学部1年

〈＊被災地の状況を見て〉
これからの復興支援として最も重要なことは、がれきの撤去や土砂の整理のような目に見えるいかにも復興作業といえるようなことではなく、被災者の方々の心のケアであったり、被災の話を聞いてそれを語り継いでいったりすることだと学んだ。
今回学んだことを周りに伝えていくと同時に、東日本大震災のことを忘れないようにし、自分の災害対策をしっかりとしたり、またボランティアに参加したりしようと思った。
教育学部2年

〈＊被災地について〉
震災当時は被災地に関心を寄せる人が多かったが、5年以上経つと次第に被災地以外の人々の中では東日本大震災が風化しつつあるのではないかと感じる。もう被災地は大方復興したと考えている人も多いだろうが、被災地では今も復興へ向けての戦いが続いている。これから更に時が経っても私達は被災地のことを忘れず、被災地の復興を応援する気持ちを持ち続けていかなければならないと思った。　文学部2年

〈＊被災地・ボランティアについての意識の変化〉
ボランティア活動センターを訪れ、臨時で活動の拠点を作り全国からのボランティアを取りまとめている様子を見て、このような取り組みがあるからボランティアをさせて頂くことができるのだと感じた。
また、南三陸町の語り部の方が、「全国からボランティアの方が集まって下さることが、被災地の励みになる」と仰っていたのが印象的だった。　法政経学部3年

〈＊被災地・ボランティアについての意識の変化〉
ボランティア活動は、「ボランティアさせていただいている」という姿勢が重要だと学んだ。活動させていただくご家族の気持ちを一番に考え、謙虚な姿勢で自分のできることをしていくことがボランティア活動の本来の形なのだと思った。
また今はがれきの撤去などではなく、もう一度お家に住めるように、雑草を刈ったりするボランティアが求められているのだと知った。今回の案件のように、5年間伸びきった雑草や蔦をご家族だけで刈るのは大変だが、大人数で行うことで短時間に行える。被災者の方々が少しでも早く今までの生活に戻れるよう、また復興支援をしていきたいと思った。
教育学部2年

通年の活動

ボランティア掲示板

総合学生支援センター2階「ふれあいの環」にボランティア掲示板を設置しています。

掲示板では大学に集められたボランティア情報や、ボランティア参加の手順等を張り出し、学生のボランティア参加を後押ししています。

掲示板を見に来た学生に対しては、学生スタッフがボランティアについての相談に応じます。

また、掲示板を見に来ることが難しい学生に対しては、メールマガジンの配信も行っています。

ボランティア相談会

ボランティアに関心のある学生に対し、ボランティア経験を持つ学生スタッフが相談を受け付けます。ボランティア参加意欲を持つ学生への情報提供や、不安を解消することなどを主な目的として開催しています。

開催に向けた学生スタッフ内での勉強会では、ボランティアに関するワークショップや、ボランティア経験者による講演会・座談会などを行っています。

ちばシティサバイバルキャンプ

日時：平成28年9月25日
場所：千葉大学　第一体育館・グラウンド
参加人数：小学生約90人（保護者同伴）
共催：千葉大学・千葉県キャンプ協会
　　千葉大学ボランティア活動支援
　　学生スタッフ
後援：千葉県・千葉県教育委員会
　　千葉市・千葉市教育委員会
　　日本キャンプ協会

9月の末に、千葉市内の小学生を主な対象とした、サバイバル活動の体験イベントを開催しました。

子ども達がキャンプ活動やサバイバル活動への興味を持つきっかけや、防災意識を高めるきっかけを作るのが主な目的です。

イベントでは４つの体験プログラム（ロープ結び・刃物を使ったクラフト・火おこし・防災トイレ）のうち２つを子ども達に選んでもらい、学生スタッフやキャンプ協会の方々と活動しました。

大学祭企画

「震災とともに。～今を伝える～」

平成28年11月5日～11月6日
場　所：総合学生支援センター1階

ボランティア活動支援学生スタッフの活動報告をするとともに、東北大震災の風化防止や防災意識の向上に貢献するため、千葉大学学祭に出展しました。

今年度は、「展示」「東北・熊本物産展」の2ブースの出展でした。

○展示

主な展示内容は、これまで開催した計7回のボランティアツアーの活動風景を収めた写真展示です。また、ボランティア活動支援学生スタッフ及び総合学生支援センターふれあいの環の活動をまとめたパネル展示と、それらの案内も行っています。

平成28年度千葉大学祭

○東北・熊本物産展

震災の風化防止のため、被災地から発信されている復興促進の商品を取り寄せ、販売しました。

品目は岩手県南三陸町のエコたわし「編んだらもんだら」と、宮城県石巻市のアクセサリー「しじみかえる」、東北三県の銘菓などです。また今年度は、熊本大地震への復興支援として、熊本の銘菓なども取り扱いました。

○来場者の声

・学生の皆様がこういうことに一所懸命携わっている姿を見て、未来は明るいと思いました。

・いろいろなパネル紹介の中で、現地の人たちは大変な中でそれでもこれからも生きていかなければならないことボランティアの皆さん、地区の皆さんも、どうぞ頑張ってください。

・震災から年月も経ち、世間的に忘れられているような気がしますが、こうして引き続きボランティア活動を行っている方たちもたくさんいること、頭が下がる思いです。想像力と思いやりが大切な気がします。今年は物産品が買えたので良かったです。

大学祭展示パネル

千葉大学震災ボランティアツアー

2011年、震災ボランティアに関心のある学生が多く学内にいる中、ボランティア未経験者にとって“震災ボランティア”はなかなか一歩踏み出すことができないという状況がありました。そこで、学生にとって最も身近な千葉大学が主催することで、そういった学生の震災ボランティア参加へのきっかけを作ることを目的としてこのツアーが始まりました。2011年から始まり、2016年まで7回目の開催となります。

2011

第1回 8.4～8.7
場所　：宮城県気仙沼市
参加人数：学生31人＋教職員7人
内容　：ガレキの撤去、魚網のほぐし

第2回 9.22～9.25
場所　：宮城県南三陸町
参加人数：学生24人＋教職員10人
内容　：ガレキの撤去、除草作業

2012

第3回 8.30～9.2
場所　：宮城県南三陸町
参加人数：学生99人＋教職員20人
内容　：ガレキの撤去、除草作業

2013

第4回 9.26～9.29
場所　：福島県南相馬市
参加人数：学生32人＋教職員11人
内容　：家の掃除、ごみの分別、除草

2014

第5回 9.10～9.13
場所　：福島県南相馬市
参加人数：学生32人＋教職員11人
内容　：家の掃除、ごみの分別、除草

2015

第6回 9.10～9.13
場所　：福島県南相馬市
参加人数：学生25人＋教職員7人
内容　：家の掃除、ごみの分別、除草

2016

第7回 6.24～6.26
場所　：福島県南相馬市、宮城県南三陸町
参加人数：学生28人＋教職員7人
内容　：語り部、除草

東日本大震災の概要

【基本データ】

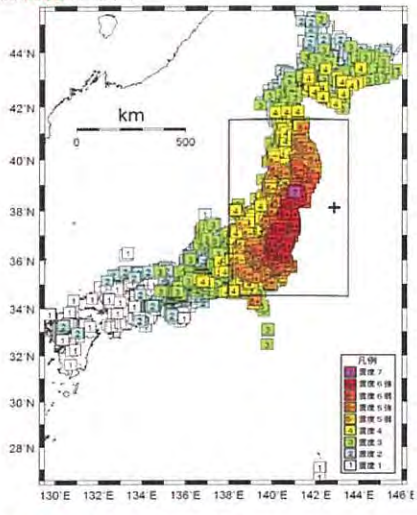
発震時刻：平成23年3月11日14時46分18.1秒
震央地名：三陸沖
震源の深さ：24km
規模 M（マグニチュード）：9.0（モーメントマグニチュード）
発生機構：西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層で、
太平洋プレートと陸のプレートとの境界で発生。

【被害データ】

	人的被害（人）			建物被害（戸）	
	死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊
岩手県	4673	1123	213	19507	6568
宮城県	9541	1233	4145	82999	155130
福島県	1613	197	183	15194	79575

（平成28年9月9日　警察庁）

【本震震度分布図】



（気象庁）

【今後の復興の道のりと見通し】

東日本大震災からの復興に向けた道のりと見通し（復興庁）

【復興の現状】

①南相馬市

平成28年7月12日午前0時をもって原発事故に伴い設定された避難区域のうち帰宅困難区域を除く、避難指示区域が解除されました。

平成23年3月11日時点で71561人だった南相馬市の人口は、現在、仮設住宅や自宅に住んでいる人、合わせて47133人まで減少してしまっています。

避難区域が解除され、復興が進んできているが、減少した人口の問題、風評被害などまだまだ課題が残っています。

②南三陸町

津波の被害にあった地域で災害廃棄物の処理はすべて終了しています。**「なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に」**という原則の下、高台に住宅や公共施設を配置するといった、震災の教訓を生かした復興が進められています。

人口減少や風評被害などの課題もまだまだ残っています。そんななか南三陸町では観光客を呼び込む取り組みがなされています。それが南三陸さんさん商店街です。

南三陸さんさん商店街は、平成24年2月25日に、宮城県南三陸町の志津川地区にオープンした仮設商店街です。復興を担う地元の事業者32店が軒を連ねています。週末になるとフードコートや特設のステージで様々な催しが開催されます。連日多くの観光客が訪れ、にぎわっています。

【ボランティア活動】

この表は平成28年7月31日までのボランティア参加人数です。この5年ほどで多くの方が震災支援に携わっています。現在でも支援を必要としている方がいることを忘れないでください。

計	岩手	宮城	福島
1,499,800	543,100	745,700	211,000

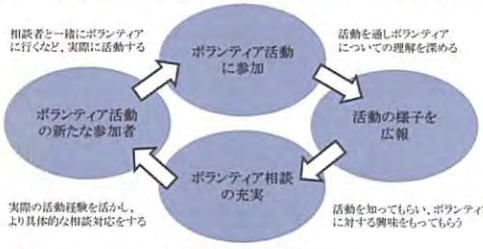
千葉大にボランティアを

ボランティア活動支援 学生スタッフ

連絡先：chibauniv.vc@gmail.com

○ボランティアを広めたい

私たち学生スタッフは、様々なボランティアに参加しながら、ボランティアに携わりたい教職員や学生のサポートを目的に活動しています。3つの柱として、ボランティア情報発信、ボランティア参加、ボランティア相談があります。これらの充実のために、週に一回ミーティングを行っています。



○ボランティア情報発信

・掲示板

大学に掲示依頼のきたボランティア情報を「子ども、災害、国際、環境、福祉、その他」の6つの項目に分類をして掲示しています。

・メールマガジン

ボランティア情報や学生スタッフのボランティア体験を毎月1日に配信しています。

・Twitter 『ID @vc_chiba_univ』

掲示板のボランティア情報や活動内容などを発信しています。

○ボランティア相談

ボランティアに興味のある学生の相談対応をしています。

・ボランティア相談会

長期休暇を利用してボランティアをやってみたい！という方を対象に相談会を開催しています。興味はあるけどなかなか一歩が踏み出せないそんな学生の手助けができればと思っています。やってみたいけどどうしたらいいかわからないという方はいつでも受け付けますのでご気軽にご相談ください。

○ボランティア参加

学生スタッフも実際にボランティアに参加もし，その経験を通じて、ほかに活動に生かしています。

・ちばシティサバイバルキャンプ

千葉市内の小中学生を集め、災害時に役立つスキルを伝授しています。防災トイレ、火おこしなどのプログラムに子どもたちは興味津々でした。

・マンスリーウィークエンド

千葉市少年自然の家で行われる月1回の家族参加型プログラムのお手伝いをしています。

・富岡運動会・豆まき支援

原発事故により被災した富岡小学校の校長先生が千葉大学の卒業生だったご縁もあり、運動会とスキー教室＆豆まき集会の年2回交流しています。

・緑 joy 東北

千葉県に避難している東北の方々を対象とした復興応援イベントの出展にご協力しています。今までに活動展示紹介や防災スリッパ作りを行いました。

・キャンパスクリーン活動

大学構内の清掃活動に学生が参加しています。教職員の方と一緒に活動し、交流も出来ます。

・東北ボランティアツアー

有志の千葉大生を集め、被災地でのボランティア活動や、このような被害を二度と起こさないように被災した方の語り部を実施しています。

学外でのボランティア活動

東日本大震災被災者支援・東北復興応援イベント
「縁 joy・東北」2016

日時：平成28年12月17日
場所：千葉市きぼーる広場（アトリウム）

千葉市 Qiball（きぼーる）で開催されたイベント、「縁 joy・東北」に参加しました。今年で4回目の参加となります。

「縁 joy・東北」とは、東北大震災後、千葉県内に避難している方々の元気づくりと、被災地・被災者についての現状理解の促進、そして被災地支援の継続を呼びかけることを目的としたイベントです。

「縁 joy・東北」では被災者を対象とした専門家の相談企画・東北３県物産展などの販売企画、民謡などが披露されるステージ企画など、様々な企画が行われました。

私たち学生スタッフは、活動報告展示と、防災意識向上を目的とした新聞紙スリッパ作り・防災かるたの体験を企画・運営しました。また、東北名物である芋煮の販売も行いました。

防災体験企画では、こどもから大人の方まで様々な方に体験していただきました。防災について考える良いきっかけになったと思います。

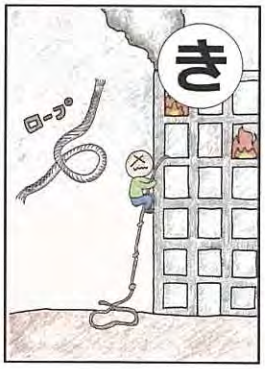
また参加している他のボランティア活動団体の方とも交流でき、非常に学ぶところの大きい1日となりました。

防災かるた　一例

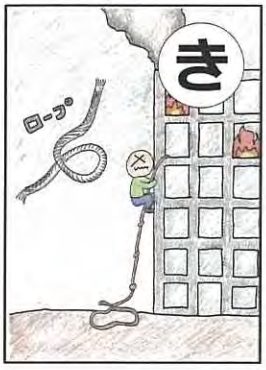
電気ガス
水道交通
ライフライン

竜巻だ
窓から離れて
身を守ろう

重いもの
倒れてくると
危ないよ



避難訓練
おさないかけない
しゃべらない



緊急時
ロープでつながる
皆の命

コップにも
スリッパにもなる
新聞紙

ちゃんと聞こう
防災無線は
命綱

恵みあり
恐ろしさあり
活火山

学外研修活動

より良いボランティア活動支援を実現するため、学生スタッフは研修として一般のボランティア活動にも積極的に参加しています。

これは「ボランティア活動を支援するスタッフこそがボランティアの素晴らしさを体感していなくてはならない」という考えのもと、昨年度から実施しています。

千葉市少年自然の家「マンスリーウィークエンド」

場所：千葉市少年自然の家

千葉市少年自然の家が主催するキャンプ「マンスリーウィークエンド」にスタッフとして参加しています。

マンスリーウィークエンドは3歳以上中学生以下の子どもを含む家族を対象としたキャンプで、クライミングウォールやクラフトなど、様々な活動を家族で体験することができるキャンプです。

ボランティアスタッフはご家族の体験活動のサポートはもちろん、プログラム説明や写真撮影も行っています。

参加者の声

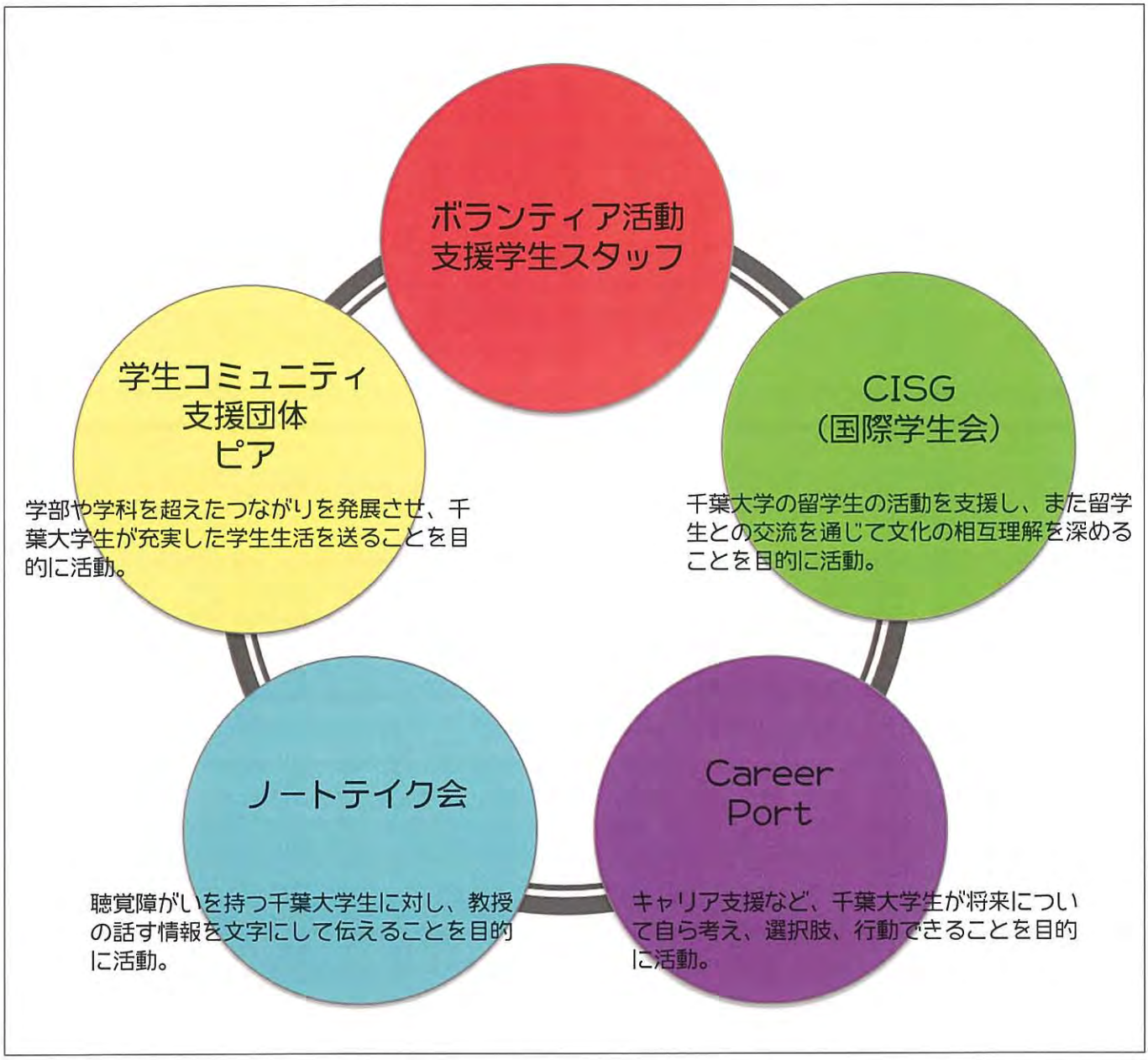
サポートをするプログラムは毎回異なり、その度に企画運営の大変さ、やりがいを感じます。参加者の方々とも触れ合える素敵なボランティアなので、これからも継続的に活動していきたいと思います。

学生スタッフ　法政経2年

ふれあいの環の活動

「ふれあいの環」とは

「ふれあいの環」とは
学生が学生を支援する活動を行う5団体により組織されています。
ボランティア活動支援学生スタッフはその5団体のうち1つです。



学生と学生、学生と教職員が相互にふれあい、イベントなどを通じて
総合的な人間力をゆっくりと身につけていくための場所です。

各団体の活動だけでなく、その枠を越えた総合的な活動を展開しています。

平成28年度の主な活動

熊本地震被災地援助募金活動

日時：平成28年5月2, 6, 9～11日
場所：総合学生支援センター　ライフセンター前
主催：ふれあいの環５団体合同

今年4月に発生した熊本地震を受けて、学内での募金活動を行いました。

今回の募金は千葉大学全体の支援活動の一部として行わせていただき、集まったお金は千葉大学からの緊急災害募金として日本赤十字社に寄付されました。皆さんのご協力に感謝いたします。

七夕 week

日時：平成28年7月1日～7月7日
場所：総合学生支援センター
主催：ふれあいの環５団体合同

総合学生支援センターを利用している学生・教職員の方々に、季節を感じてもらうとともに、自らの願いを短冊に書く機会を提供することを目的として、七夕 week を開催しました。

七夕 week では、笹をセンター1F に設置。願いを書く短冊も用意しています。
1週間の設置で400枚ほどの短冊が、笹に飾られました。

キャンパスクリーン活動に参加

日時：平成28年7月8日
場所：千葉大学西千葉キャンパス
主催：千葉大学

キャンパスクリーン活動とは、千葉大学教職員による構内清掃活動です。

日頃利用しているキャンパスをきれいにするため、ふれあいの環の学生も参加させていただきました。

清掃のお手伝いだけでなく、一緒に参加している教職員の方々とも交流もでき、非常に有意義な活動となりました。

第8回ふるさと田中みこしまつりに参加

日時：平成28年9月3日
主催：ふるさと田中みこしまつり実行委員会

ふるさと田中みこし祭りにふれあいの環の学生が参加しました。

田中みこし祭りは柏市のお祭りで、毎年、千葉大学柏の葉キャンパスの目の前（柏の葉キャンパス駅前ロータリー）で行われています。

ふれあいの環は一昨年から、柏市への貢献を主な目的とし、お神輿の担ぎ手として参加させていただいています。

一緒にお神輿を担ぐことで地域の方との交流もでき、非常に充実した時間を過ごすことができました。

第12回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムに参加

日時：平成28年9月8, 9日
主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク

ノートテイク会が日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークが主催するシンポジウムに参加し、ポスター発表を行いました。

このシンポジウムは全国の大学における聴覚障害学生支援の実践に関する情報を交換することで、今後の聴覚障害学生支援体制を発展させることを主な目的とするものです。

普段行っている聴覚障害者サポートを振り返る、良い機会となりました。

千葉大学ノートテイク会とは？

～ノートテイク会の活動～

学内の聴覚障害学生の受講する授業に出向き，“ノートテイカー（通称テイカー）”として，音声情報を聞き取ったままにPCで打ち込みます。打ち込まれた文字を聴覚障害学生がiPadで見ながら授業を受けます。学外や実習でPCが使えないときには，手書きテイクをすることもあります。

第50回 Universal Festival を開催

日時：平成28年12月6日
場所：千葉大学けやき会館　大ホール
参加人数：約180人(CISG 約80人、来場者約100人)
主催：千葉大学国際教育センター
企画・運営：CISG(千葉大学国際学生会)
協賛：千葉ユネスコ協会
協力：千葉大学環境 ISO 学生委員会、千葉大学ノートテイク会
後援：千葉市、千葉市教育委員会

Universal Festival(以下 UF)は、留学生との交流と相互理解を促進することを目的としたイベントで、年に2回開催しています。

留学生が自分の国について発表を行うステージ発表がメインの企画です。発表の後には交流会もあり、それぞれの国の伝統料理を留学生が振る舞います。

12月開催の UF では、第50回の節目ということで特別企画として、以前 UF に出ていただいた留学生が今どのようなことをしているのか、などをまとめたインタビュー映像を上映しました。

カタリベカフェを開催

日時：月に1回程度開催
場所：総合学生支援センター2F「ふれあいの環」
主催：学生コミュニティ支援団体　ピア

「カタリベカフェ」はピアが月に1回ほど開催している、様々なテーマのもとに参加者同士で語り合うイベントです。

学部・学科を超えた繋がりづくりを目指し、価値観の異なる様々な人々と語り合うことで、様々な考えや意見を共有することが主な狙いです。

年賀状プロジェクト

日時：平成29年1月
主催：ふれあいの環5団体合同

日頃からお世話になっている教職員の方々に、年賀状を製作しお渡ししました。

また平成28年7月にも、暑中見舞いを作成し、お渡ししています。

「3.11を想う」を開催

日時：平成29年3月13日
主催：ふれあいの環5団体合同

震災の風化防止を主な目的として、毎年3月に開催しています。5回目となる今年は、参加者全員で黙祷を捧げた後、座談会等を行いました。東日本大震災に思いを馳せ、参加者ひとりひとりが震災について、これからの自分達について考える機会を提供しています。

キャリアデザインラボを開催

日時：平成29年3月14日
主催：キャリアポート

学部、学科、学年を越えた交流の中で、キャリアについて考える機会を提供することを目的に開催しています。

内容は、ESの書き方や先輩たちの就職活動の体験講座、座談会などです。

ふれあいの環通信

No.4 ふれあいの環通信 H28.3

第4回「3・11を想う」を開催しました。

東日本大震災から5回目の3月11日。千葉大学で、千葉大学の学生・教職員を対象に震災の風化防止を目的とした企画を今年も開催しました。

第一部は震災当時の体験を語り合う座談会。午後2時46分に黙祷を捧げ、第二部は未来の自分への手紙を書く、という内容でした。

↑座談会の様子

←黙祷の様子

↓未来の自分への手紙

はじめは一部の学生が有志と小規模で始めた本企画ですが、5年目という節目の年を迎え、参加者の数も当初より増えています。参加した方々が東日本の現状を知り、またあらためて考えを深めるきっかけになるような会をこれからも目指していけたらと思います。

No.5 ふれあいの環通信 H28.5

福島県富岡幼稚園・小・中学校合同運動会に参加しました！

5月27日、28日の2日間福島県三春町にある富岡小・中学校を訪れ運動会の運営補助をし、一緒に競技に参加させていただきました。

↑27日の前日練習の様子
簡単なレクで楽しく交流しました。

↓給食風景
練習の後は一緒に給食をいただきました。

→当日の様子

当日は晴天に恵まれ、震災後初となる全種目屋外での開催となりました。運動会を見に来た町民の方々とも一緒に盆踊りを踊って交流できました（←写真下）。今後も富岡町の状況に合わせた交流を続けていきたいと思います。

○富岡町について○

富岡町は原発事故に戒区域に指定され全[illegible]しています。当時の[illegible]校の校長先生が千葉[illegible]あった縁から201[illegible]交流を続けています。

No.6 ふれあいの環通信 H28.6

第7回東北ボランティアツアーを実施しました！

6月24日から26日の3日間南三陸町での語り部による学びのプログラムと南相馬市でのボランティア活動を行うボランティアツアーを実施しました。

↑ミーティングの様子
内容を振り返り共有しました。

↓南三陸での学びのプログラム

→作業の様子

←家主の方との集合写真

25日の学びのプログラムでは、バスで南三陸の[illegible]現状を知るとともに、[illegible]の方から当時のお話[illegible]伝えることの大切さ[illegible]感じました。翌日の[illegible]家の周りに茂った草[illegible]く作業をさせていた[illegible]た。被災地の今をこ[illegible]伝えていきたいです。

No.7 ふれあいの環通信 H28.9

第3回千葉シティサバイバルキャンプを開催しました！

9月25日に、千葉大学で、千葉市内の小学生を主な対象に防災に関する様々なプログラムを行いました。火おこしやロープワークなど、子ども達にとって初めての経験も多く、楽しく安全な活動になるように私たちスタッフも一生懸命でした。

☆開会式の様子

☆ロープワークプログラム

☆火おこしプログラム

↑スタッフミーティングの様子
内容を振り返り共有しました。

本イベントは、私たち学生スタッフが企画から当日の運営まで関わらせていただいています。毎年たくさんの子ども達が参加してくれていて、「楽しかった！」「またやってみたい！」そんな嬉しい声を届けてくれます。来年も、保護者の方からの要望や今までの反省を活かして、より充実したイベントにしていきたいと思っています。

No.8 ふれあいの環通信 H28.10

10月カタリベカフェを開催しました！

少し肌寒くなり秋の深まりを感じる10月14日。千葉大学で、学生・教職員を対象にカタリベカフェを開催しました。

前回までとは少し趣向を変え、「あなたにとって芸術とは何ですか」というテーマをプレゼンターが投げかけ、参加者たちが思い描く「芸術」を語り合う会となりました。

→参加者同士の交流の様子

○カタリベカフェとは○

ふれあいの環の団体のひとつ、「学生コミュニティ支援団体ピア」が主催。学部・学科を超えた学生同士のつながり、また、学生と教職員の意見交換の場づくりを目指す。

月に一度の開催を目標としており、毎回一つのテーマを軸に参加者同士で語り合う。

↑カタリベカフェの様子
内容を振り返り、意見交換をしました。

↑過去のカタリベカフェの様子

←10月カタリベカフェポスター

活動を振り返って

「ふれあいの環」　会長　理学研究科　2年　小林篤史

私は学部と修士課程を合わせて6年間、ボランティアの企画運営や学生支援を中心に活動をさせて頂きました。学生生活を振り返ると、「ふれあいの環」との出会いが私にとって非常に大きなものだったと感じます。

その理由の1つは、ボランティアやイベントの企画運営の中で様々な人との交流があったことです。他学部の学生はもちろん、大学の職員・教員の方々、地域市民や児童、被災地の方々など、本当に色々な人と活動を通じてつながる機会がありました。年代や立場の異なる方々との関わりの中で多様な価値観に触れたことは、自分の視野や考え方を広げる貴重な経験となりました。

もう1つは、組織運営の経験をさせていただいたことです。特に修士1年次に代表となってからは、自分達は誰のために何ができるのか、教職員や地域住民の方々に喜んで頂くにはどうすれば良いか、所属する学生が明るく前向きに活動できる環境をどう作るのかなどを常に考え続けなくてはなりませんでした。正解の無い課題に対して向き合い、周囲の人々に支えられえながら試行錯誤を繰り返したことは、私の人生の大きな糧となっています。

いずれの経験も学科の講義や研究生活では決して得られないものであり、ふれあいの環で活動ができて本当に良かったと感じています。活動を支えてくださった教職員の皆様、共に活動してくれているピアサポーターをはじめとして、これまでお世話になった全ての方々に、改めて感謝申し上げます。今後も「ふれあいの環」がより有意義で充実した支援ができるよう、精一杯活動して参ります。

「ふれあいの環」　代表　教育学部　3年　飯迫奨大

「学生が学生を支援する」という信念のもと、その在り方を考えていくところから私たちの活動は始まります。学生の立場で同じ学生を支援するというのは簡単ではありません。しかし、同じ立場だからこそできる支援の形があると、日々の活動を通して実感しています。「ふれあいの環」は、支援の形によって5つの団体に分かれています。今後も、様々な学生のニーズに合わせた多様な支援の在り方をひとりひとりが模索しながら活動していくことで、より意義のある支援を行っていきたいと思います。

私はこの1年間、学生支援コミュニティ団体ピアの代表としても活動させていただきました。カタリベカフェの運営や、次年度の履修相談の企画などを通し、個々の学生と実際に向き合う機会の多い私たちは「支援」という言葉に、より様々な思いを抱きます。その中で、実際に学生が期待しているもの、抱えている不安なども強く感じるところです。それらを受けて行う私たちの活動が、学生たちのプラスになり、ひいては千葉大学全体の向上の一助になれば幸いです。

また、こうした活動を継続していけるのは、学生支援課をはじめ、教職員の方々のご支援・ご協力があればこそです。心より感謝申し上げます。

ボランティア活動支援学生スタッフ　前代表　文学部　4年　林　夏菜子

ふれあいの環は私にとって、総合的人間力の実践の場でした。代表という立場も経験させていただき、自分という人間を全て出しきるつもりで取り組んできました。だからこそ大変なことも嬉しいことも経験でき、これからの人生の糧になると思っています。しかし、それらの経験もそれを確かめさせてくれる誰かがいなければ成長にはなりません。語り合い、助け合い、誰かとともに過ごすことで自分を確認でき、高めていくことが出来るのだと思います。ふれあいの環の活動を通じて出会えた福島の子どもたち、現地の方々、NPO団体の方々、そして日頃の活動を支えてくださった教職員の方々、学生スタッフの仲間たち、そのすべての出会いに感謝いたします。また、そのような場を与えてくれた千葉大学に心から感謝しています。ふれあいの環の活動は、まだまだこれから大きなうねりとなり、千葉大学がより高きところへと突き進む原動力になると信じています。

ボランティア活動支援学生スタッフ　代表　工学部　3年　秋山　光

私は「ふれあいの環」のスタッフとして様々なボランティア活動に参加したり、その経験活かして学生にボランティアの楽しさを伝えるために尽力してまいりました。「学生が学生を支援する」という信念のもと私たち学生ならではの視点から活動を行っています。

活動の中でボランティア等のやりたいことがあるけど、きっかけがないと中々行動できないという学生が多くいました。そんな学生たちの一歩を踏み出す手助けをすることが私たちの活動で大きな意味を持つと感じています。その学生たちが活動をし、その経験を活かし別の学生の手助けをする、そんなサイクルができれば、「学生が学生を支援する」ことが大学全体に広がっていき、私たちの活動が実を結ぶのではないでしょうか。

こうした活動を今も続けてられているのは、今まで根気強く活動を広げてきた先輩方や活動を支えてくれた教職員の方々がいたからこそです。改めて心より感謝申し上げるとともに、今後もより精力的に活動していこうと思います。

6月9日
「UF」
UF（ユニバーサルフェスティバル）はCISG（国際学生会）が主催して年2回開かれています。留学生が自国の文化や料理を紹介します。毎回たくさんの学生が参加しています。

7月8日
「ボランティア相談会」
ボランティア活動を考える学生や興味のある学生を対象に、ボランティア活動への不安を解消する相談会を行いました。
当日はボランティア活動を支援する学生スタッフが個別に相談に乗りました。
当日は多くの学生に参加してもらいボランティア活動に対する関高さが分かりました。

7月8日
「キャンパスクリーン」
千葉大学の構内を清掃する企画に参加させていただきました。活動を通じて、教職員の方々とコミュニケーションを取ることも出来、とても有意義な時間になりました。

7月
「七夕week」
日本文化に親しむとともに自身の願いを文字にする機会を作ることを目的に、学生支援センターに笹と短冊を設置しました。
七夕までの1週間設置し、期間を通して400枚ほどの短冊が飾られました。

9月25日
「ちばシティサバイバルキャンプ」
千葉市内の小学生を中心に子どもたちに様々な経験をして防災に役立ててもらうことを目的に行いました。
千葉大学は広域避難場所に指定されており、サッカーグラウンドのベンチが非常時にはトイレになります。このような設備は普段使うことはありませんが、普段から知っておくことが大切です。

7月1日
「ふれあいの環5団体交流会」
学生が学生を支援するという目的をもつ「ふれあいの環」に所属する学生同士が交流を深めることで、さらに活動を重質させるために毎年行っています。

7月20日
「ピアノリレー」
ピアノをリレーのバトンに見立て順番に弾いていくイベントです。音楽を通した学生間の交流を目的に不定期で開催しています。

10月10日
「千葉大学学長杯争奪駅伝」
ふれあいの環から2チームが参加しました。優勝は出来ませんでしたが、たすきを繋ぐことでより絆が深まったと思います。

8月30・31日
「合宿」
顧問の長澤先生とともに館山のセミナーハウスで合宿を行いました。ミーティングなどを通して普段の活動を見直すと共に、意識の向上を図りました。

9月3日
「田中みこし祭り」
柏の葉キャンパスのある柏市のお祭りで今年で3年目の参加となりました。地域の方との交流も出来、貴重な経験をさせていただきました。

ふれあいの環通信 増刊号

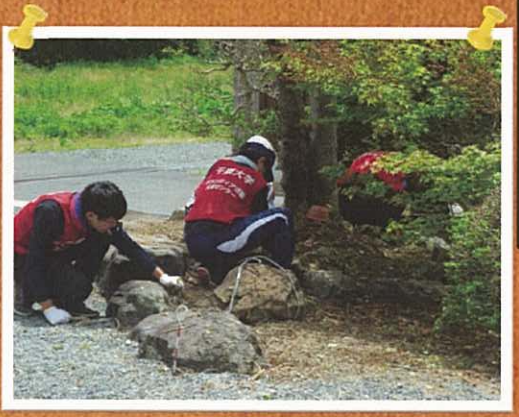
3月11日
「3．11を想う」
東日本大震災の風化防止のため、千葉大学生・職員を対象に行いました。
震災の発生時刻には黙祷を捧げ、その後新年度に向けての決意表明をしました。過去を振り返ると共に、これからのことにも目を向ける必要を改めて考えました。

4月
「ふれあいの環 合同説明会」
ふれあいの環に所属する5団体が合同で新入生対象の説明会を開きました。

5月
「熊本地震募金活動」
4月に発生した熊本地震への千葉大学の募金活動の一環として活動させていただきました。お昼の時間にライフセンターの入口で行い、たくさんの方にご協力をいただきました。

5月28日
富岡小学校運動会
震災の直後から交流を続けている富岡小学校の運動会支援をさせていただきました。毎年子どもたちのパワーに圧倒されています。

6月24～26日
「千葉大学東北ボランティアツアー」
今年で7回目となるボランティアツアーを企画、運営しました。今年は、ボランティア活動だけでなく宮城県南三陸町で語り部の方のお話を聴くツアーにも参加し、現地の現状を直接、見て聴いて感じることが出来ました。
その後、福島県南相馬市で除草作業のお手伝いをさせていただきました。震災から5年以上経過して、変化した部分もありますが変わらない部分もあるのが、現状です。



5、6、7、10月
「カタリベカフエ」
学生コミュニティ支援団体ピアが主催しています。学生と学生、学生と教職員との交流の場を目指して月に1回のペースで行われています。毎回違ったテーマを設定し自由に語り合います。テーマは、誰もが楽しめるようにピアに所属する学生が毎回工夫して考えてます。

※「ふれあいの環通信」はピアサポート学生により作成されています。

あとがき

学びと活動の好循環を実現しよう！

国際未来教育基幹キャビネット
学生支援センター　ピア・サポート部長
教育学部教授　長　澤　成　次

1年間の活動、本当にお疲れさまでした。報告書を読んで、改めて「ふれあいの環」の活動の豊かさを感じています。学生たちが仲間とともに、自主的に考え、計画し、行動し、そして、振り返りを行うプロセスのなかに、大変なこともあったかと思いますが、同時にさまざまな気づきや学びもあったと思います。

その気づきや学びを、共に活動した仲間とともに、共有する作業もとても大切なことです。その意味で、2016年8月30日・31日に行われた館山での研修合宿は、学生の皆さんのひとりひとりのプレゼンテーションが行われ、そして楽しい交流の場になりました。今後もぜひ継続してほしいと思います。

さて、富岡小学校支援活動では、私自身、なかなかスケジュールがあわず、今年度はじめて、一部でしたが参加することができました。この報告書にも、参加した学生の「・・長期間、関わることで子どもたちの成長も感じることができ・・」という文章がありますが、活動を継続することによって、子どもたちと学生たちとの関係が形成されていくことを目の当たりにして、あらためて、この支援活動のもつ意味を再確認したところです。

この3月11日で、東日本大震災から6年になります。2015年9月の関東・東北豪雨、2016年4月の熊本地震など、災害列島のこの日本で、防災・減災をすすめていくことが大きな課題になっています。知の拠点である大学がこの課題にどう対処していくのか。「ふれあいの環」の活動やボランティア活動のなかに、実は大学における研究テーマのシーズが隠れているようにも思います。

大学は、学生にとっては言うまでもなく「学び」の場です。誰かに強制されるのではなく、自主性・自発性を瞳のように大切にしながら、学びの営みを活動のすべての局面において意識的に位置づけていくことによって「学びと活動の好循環」が生まれるように思います。千葉大学の多くの先生方のご協力を仰ぎながら、このふれあいの環でぜひそれを実現してほしい、これが、この3月末に定年退職をする私からの皆さんに贈る言葉です。

国際未来教育基幹キャビネット
学生支援センター　副センター長
教育学部准教授　下永田　修二

平成28年度は学生とともに富岡小学校の運動会、東北ボランティアツアー、ちばシティサバイバルキャンプ、富岡小学校豆まき集会等に私も参加し、活動してきました。

各活動における学生の様子をみていると、それぞれが自主的・自発的に活動し、学生がそれぞれの活動から学び、各活動に関わっている人々と世代を越えてつながりを深めておりました。これは私としてもたいへんうれしいことであり、今後も多くの学生とともにこのセンターの活動を続けていきたいと思っております。また、活動に参加した学生同士の貴重な結びつきもみられ、学年、学部等を越えた学生間のきずなが深まっておりました。これも、学生の将来にとって大きな財産であり、心の支えとなっていくと思っています。

さて、今年度で、このセンターを、そして千葉大学を卒業していく学生の皆さんには感謝し、今後の活躍を期待しております。また、在校生の皆さんには新しいメンバーも迎え、新年度もお互いに協力し、益々、充実した活動に取り組んでほしいと思っております。

最後になりますが、この1年間、学生を支えていただいた教職員の皆様、学生にかけがえのない経験と学びの場を与えてくださった各活動の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

編集スタッフ

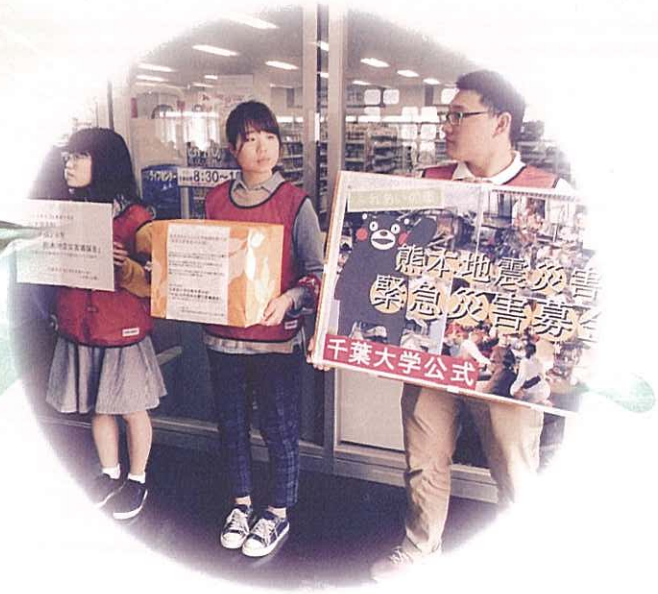
ボランティア活動支援センター長

学生スタッフ　一同

ピア・サポーター　一同

学務部学生支援課

平成29年3月 発行
発行者　千葉大学学務部学生支援課・千葉大学ボランティア活動支援センター
〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町1-33
043-251-1111(代)


熊本地震災害
緊急災害募
千葉大学公式